

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1870300330		
法人名	ケアファースト株式会社		
事業所名	グループホームらくらく		
所在地	福井県越前市稲寄町12-8-5		
自己評価作成日	平成22年10月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kouhyo-fukui.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=1870300330&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	平成22年11月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者にはいつも笑顔でいてほしい。時には腹の底から笑えるようなことがあるよう接している。自然体でいられるような生活を心がけている。また、出来る事を継続して、していただくともころがけてはいるが、「たまにはズボラしなきゃね」などと、さぼることも交え、ゆったりとした生活を送っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、周辺に田園が広がる住宅地の中に立地しており、周辺にある寺や神社への散歩や近隣のスーパーマーケットへの買物など、日常的に外出しやすい環境にある。運営法人は、他にも訪問介護・通所介護などの介護保険事業所を運営しており、事業所間の連携を図り入居者に良質なサービスを提供している。建物の天井は高く吹き抜けており、採光も良い。リビングは広くゆったりとした空間で、対面式のキッチンからは調理中の美味しそうな匂いが漂っている。デイサービス事業所との間の中庭には野菜等が植えられており、季節を肌で感じることができる。全職員が理念である入居者の笑顔のある毎日のくらしの実現を目指し取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	笑顔キーワードにした理念をつくっており、毎朝申し送り時に職員全員で唱和している。理念をいつも心にとめ、楽しく仕事をしている。	「笑顔のある毎日の暮らし」などの理念を毎朝唱和してから業務に取り組んでいる。笑顔の絶えない温かいケアが提供できるよう理念を共有していることが、職員のヒアリングからも確認できた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の老人会活動に参加。ゲーム・そば会・カラオケ会など、希望者のみ参加している。無理強いはいしない。地域の祭に出かけ、盆踊りに参加。近所の人には常に声かけし、遊びにきてもらうよう働きかけている。	会費を納め、自治会に加入している。地域の祭りや盆踊りなどの行事のの他、そば会などの老人会活動の参加など、地域住民との交流を図っている。	地域とつながりながら暮らしていくことを支えるというグループホームの役割をできるだけ多くの住民に理解してもらうため、認知症ケアを掲載した広報紙などを作成し回覧してもらうなど、ホームから地域住民への積極的な働きかけを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は実際の夜間に避難訓練を行ない、地区の自警隊約30名が参加して下さった。その際、グループホームの地域でのあり方や認知症理解について話をさせてもらった。質問なども多くあり、今後につながる期待を持った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し、現状報告や今後の取り組みを報告している。地域住民や家族の意見も業務改善の参考にさせていただいている。	市介護保険室長、地区自警隊長等の参加を得て、ホームの現状報告や今後の取り組みについて話し合っている。	地域密着型のホームの役割について、理解を得るためにも、区長・老人会長・民生委員・家族など、できるだけ幅広い分野からの参加要請を期待したい。また、委員から地域住民へのホームの啓発支援も期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	困難事例発生時など、市町村担当者と緊密に連絡をとりながら相談し、誠実に対応して貰っている。	運営推進会議に市の介護保険室長の参加を得ている。また、担当者からは、ホーム運営の困難事例や入居者の認定調査などで助言ももらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	契約時、身体拘束に関する同意書はいただいているが、拘束はしない方針。又、玄関の施錠はしていなかったが、一人の利用者の認知症状が強く、施設の前の道路の交通量が多いことから、安全面を考慮し、やむを得ず施錠している。	以前は玄関を施錠していなかったが、入居者の安全を考慮し現在は施錠している。職員は、やむを得ず鍵をかけていることを理解しており、常に入居者を見守り外出したい様子を察知し、一緒に外に出て好きなコースを散歩している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年度はこれまで虐待防止に関する研修に参加する機会が無く、やむを得ず内部研修を実施。資料集めを職員全員で行なうなどで意識を高めた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し学ぶ機会を設けている。利用者の中に成年後見制度を利用している方がおられ(5月死亡)、申請段階から関わっていた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は書面をみながら説明し、小さな疑問でも丁寧に答え、納得してもらった上で契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来所された折、都度話をさせてもらい書きとめている。内部カンファレンスなどで問題については話し合い、改善に努めている。玄関には意見箱を設置している。	職員は、家族の訪問時に意見や要望などが言いやすいように接することを心がけている。問題点は、職員間で話し合い解決できるように取り組んでいる。意見箱を玄関に設置しているが、今のところ意見はない。	遠方に住んでいる家族が多いため意見を聴ける機会が少ないが、ホームの運営に関心を持ってもらえるよう運営推進会議の報告やホーム独自の家族アンケートの実施など、ホームからの働きかけを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者会議や社内の連絡会などの議案や議決は、毎日の申し送り時や定期的なカンファレンスで報告。職員の意見は常に話し合い、皆の意見をまとめた上で上司に伝えている。	管理者は、管理者会議や連絡会の議案などを毎日の申し送りやカンファレンス時に職員に報告している。また、職員で話し合い取りまとめた意見などを管理者が上司に報告し、運営に反映されるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年3月に自己評価を行なう。評価結果に基づいて、役員と面接を行い互いに意見を交換し、給与への反映や業務改善等につなげるよう努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者の判断に基づき、年度初めに教育研修計画をたて実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福井県グループホーム連絡協議会に参加し、意見交換を行い、併せて職員の相互訪問を実施し、質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所申し込み時、本人・家族の思いをよく聴く。利用開始前から本人の経過を記録し、面談を通して更によく知るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申し込み時、家族の事情や本人の状況などよく聞き、個々の事情に合わせたケアを行なえるよう職員皆で話し合い、実践している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時、本人面談をしっかりと行い、その人に合ったサービスが何か、職員皆で考え対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ほぼ自立の利用者が大半なので、日常生活を送る上で必要な行為は、一緒に笑いあいながら行なうようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院は基本的に家族対応。家族が来所した際、近況報告やリハビリの成果など話し、家族と一緒に外出や外泊など、無理のない範囲でお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族も含め、友人・隣人など来所して下されば、必ず再度の訪問をお願いし、連絡先を伺う。普段の利用者との会話の中にそれらの人の話題を出している。又、理容店や美容院は馴染みの店を利用してもらう。	理髪店・美容室は、入居者の馴染みの店を利用している。また、ホームを訪問する友人などに連絡先を伺うなど、入居者との関係継続のための支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の利用者を十分に理解し、孤立しない様に職員が仲間に加わり、会話やゲームを楽しんでいる。無理強いはいしない。毎日の共同生活の中で、親友ができた利用者がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も家族からの相談などがしばらく続くことがあり、都度丁寧に対応している。又、他の施設に移った利用者には、当ホームの利用者とドライブを兼ねながら訪問している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人から希望・意向を聞く他、日々の様子で想いをくみ取っている。家族からも家での暮らしぶりを聞き、できる限り本人のこれまでの生活習慣が続けられるよう支援している。	入居者の思いや家族からのこれまでの生活習慣などの情報の他、職員間で入居者一人ひとりについて話し合い、「今日も1日楽しかった」と思ってもらえるよう、入居者の希望に沿えるような支援を実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者本人や家族から、生活歴や馴染んできた暮らし方、生活環境、サービス利用の経過などの聞き取りを行い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当職員を決め、性格や好み、薬など担当の職員が全てを把握できる様、日頃から話し合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人とは毎日話をし、望みを知るよう努めている。面会に来られる家族には、日々の様子を細かく伝え、状況に変化があれば電話で相談をし、計画作成に反映している。	センター方式を活用した介護計画を作成し、毎月見直しを行っている。入居者との関わりで気になったことは、業務日誌に記録し職員間で共有している。急な状況変化があった時にはその都度計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づき個別計画を担当者が作成。不規則勤務のため、申し送り時や連絡帳記載にて情報を共有。実践・モニタリングしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	食事や入浴など、日々の生活の中でも一人一人に対する対応を個別に考えている。新たなニーズが生まれれば、職員間で相談し役割分担をしながら対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の老人会、学校帰りの子供との交流などに機敏に対応。行きつけの理髪店や美容院を利用。安心できる暮らしをこころがけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2度、かかりつけ医の往診がある。入所前のかかりつけ医を希望されれば家族対応をお願いをしている。	かかりつけ医での受診を希望する入居者には、家族に同行してもらい、受診結果の報告を受けている。また、ホームが提携しているクリニックの医師による月2回往診がある。この他、毎月協力医による往診もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接するデイサービスの看護師や、かかりつけ医院の看護師と常に連絡を取りあい、小さなことでも聞けるような関係を築いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医のDrとは深夜でも相談できる体制ができている。入院時はたびたび様子をみに行き、病院関係者と連絡をとりあっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期は行なわない。重度化しないようなケアを心がけ、時期をみて家族や主治医と相談しながら、本人にとって最もよい方法を選択できる様、普段から話し合う。重度化が見込まれる時は、1日の状態を皆で協議し、その人にとって一番よい方法を選択する。	契約時に本人・家族と重度化・終末期における支援のあり方について話し合い、方針を共有している。月2回のかかりつけ医の往診で入居者の健康状態を把握し、ホームとしてできる範囲で本人・家族が希望する支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命訓練に定期的に参加している。カンファレンス時などに実技を行い、一人一人が身につくようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防と一緒に昼間と夜間の避難訓練の他に、独自で職員一人一人が夜間を想定した避難訓練を2ヶ月に一度実施している。地区の自警隊も参加してもらっている。又、地区の自警隊長には都度指導を仰いでいる。	年2回、消防署の協力を得て実施する避難訓練の他、2か月に1回、地区自警団の協力の下、職員一人ひとりが夜間を想定した避難訓練を独自で実施しており、非常時対策の問題点を把握し改善に繋げている。非常食等の備蓄もあり、スプリンクラーの設置については現在申請中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊敬の念を抱くよう、普段から職員同士で話している。プライバシー保護は勿論念頭にあるが、居室内での異変等あるため、居室の鍵はつけていない。	入居者の毎日の生活が楽しいものとなるよう全職員で話しあっており、言葉づかいなど本人の尊厳が損なわれることはその都度互いに注意している。プライバシー保護のマニュアルも作成されており、個人情報も厳重に取り扱われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を聞き支援している。自己決定のできる利用者には、できる限り思いに沿うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り家にいるような気持ちになれる様、ゆったり過ごしている。天気の良い日には利用者の体調・ペースをかんがえ、散歩に出かけるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が希望すれば、馴染みの理・美容室へ行っていただいている。衣類の購入等は、本人同伴で買い物に出かけ、好みの物を選んでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は利用者と職員が同じテーブルについて、会話を楽しみながら行なう。可能な利用者とは出来る限り下準備、片付けなどを一緒にしている。一人一人の好物を知り、献立に反映させている。	食事の調理や後片付けなど、入居者はできることを職員と一緒に取り組んでいる。食事は、入居者と職員が同じテーブルにつき、好みの食べ物や味付けなどを話しながら、和気あいあいとした雰囲気を楽しんでいる様子がうかがえた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立を作り、栄養のバランスをとる。量は一人一人の日頃の量から判断している。利用者によっては、細かくしたりトロミをつけたりしている。嫌いな物がある利用者には個人的に別メニューで対応。食事・水分量は生活記録にチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立している利用者が多いため、食後の口腔ケアは声かけ、見守り程度。一週間に一度、義歯洗浄剤を使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各居室にトイレがあり、プライバシーの確保をしている。排泄記録を作り、排便には特に注意をし、便秘にならないようにしている。	排泄チェック表を基に職員が声かけし、排泄後は記録している。排泄は、各入居者の個室のトイレで行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便チェックはしているが、自立している利用者が多く、プライバシーに配慮しながら便秘しているかどうか確認。水分摂取や食事に気を配り、体操や散歩も積極的に行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調やその日の気分には留意しているが、施設的になっている。薬湯やしょうぶ湯など実施し、楽しんでもらっている。	月・火・木・金曜に風呂を沸かし、週2回入浴することができる。入居者は、ゆったりとした浴室で気の合う友達と入浴したり、薬湯や菖蒲湯など、季節に応じた工夫もなされている。	脱衣場に設置されている洗濯機に使用する漂白剤などが床にも置かれており、入居者が間違っって手に取る危険性もあるので棚の上に置くなどの対応が望まれる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1日の時間の流れの中で、食事や入浴、リハビリなど決まっている事以外は自由にしてもらえる雰囲気作りを目指している。あくまでも集団生活なので、他の利用者の迷惑になる行為については、家族のような気持ちで対応、お願いしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	担当職員を決め、薬に関する事は、どのようなことでも分かるようにしておく事をカンファレンス時などに徹底している。非番の対応のため、一人の利用者に二人の担当職員を決めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までしてきた仕事や好きなこと、得意な事を普段の会話の中から見つけ出し、職員と一緒に楽しみながら行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩を日課にしている利用者、買い物の好きな利用者、家に帰りたい利用者など、個々の希望に合わせた外出を支援している。又、畑の手入れや草むしりなどで戸外に出ている。	入居者の気分転換に徒歩や車椅子を利用した散歩を日常的に行っている。また、パンの好きな入居者と一緒に買物に出かけるなど、個別の外出支援も行っている。この他、花見やつつじ祭りなど、季節ごとの行事も実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望している利用者はいるが、紛失事故があったり家族から所持させないでほしいとの希望があり、現在は現金を所持してもらっていない。必要な物は立替で対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望にそうように、家族の都合を考慮し、できるだけ自由に電話をしようしてもらっている。手紙は事由。年賀状・暑中見舞いなどは楽しみながらかいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールはテーブル・ソファセットを配置し、畳敷きのスペースもある。外に面した部分はガラス戸でウッドデッキや季節の野菜も見える。	天井は吹き抜けで閉塞感がなく、外に面したガラス越しにはウッドデッキがあり天気の良い日は日向ぼっこができる。中庭では野菜等が栽培されている。また、リビングにある対面式のキッチンからは職員が調理しながら入居者を見守ることができる。なお、テーブル・ソファ・畳のスペースなどがあり、入居者がその時の気分で好きな場所でくつろぐことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールではテーブル・ソファ・畳コーナーなどで好きなように過ごせるよう工夫している。デッキのベンチでも心地よく過ごせる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居にあたり、今までの馴染みの家具、小物、衣類の持込をしていただく。自分の作品を飾るなど、利用者が独自で心地よい部屋作りをしている。隣室の物音が気になる利用者もいるため、居室の配置にも配慮している。	居室は洋間でトイレ・ベッド等が設置されている。入居前の生活を維持できるように馴染みの家具等が持ち込まれており、本人が安心して暮らせる部屋作りがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール内は広く、適所に手すりを設置している。杖、歩行器、老人車でも安全に移動できる。		